

第2学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 様々なことに興味・関心があり、積極的に制作活動に取り組んでいる。
 - 自分の作った作品に喜びを感じ、良くできたところを他者に伝えることができる。
- 課題**
- ▼ 友人の言葉に直ぐに反応し、作業に集中できていない児童が多い。
 - ▼ 自分で判断して作業を進めることが苦手な児童が多い。
 - ▼ 絵具やはさみなどの正しい使い方を学んでいく必要がある。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の感覚や行為を通して形や色に気づき、楽しんで制作する力。
- ◇ 自分のイメージをしっかりと持ち、自分の活動を展開していく力。
- ◇ 用具の使い方を理解し、活動や表し方を工夫する力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 児童に親しみのあるモチーフを選び、イメージを膨らませやすくする。
- 児童が新しく発見したこと、できるようになったことにしっかりと共感する。

言語活動の工夫

- 作った作品を自分の言葉で説明させる。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

ICT活用の工夫

- パワーポイントの一画面に対する情報を最小限にし、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実物投影機を使って制作のポイントを使える。

課題解決力育成の工夫

- できなかった原因を一緒に考え、できるようになるヒントを与える。
- 苦戦している児童には、達成できた児童に教え合うように促す。

達成目標

- 手や体全体の感覚などを働かせ、材料や用具を使えるようになる。
- 造形的な面白さや楽しさを感じながら、表したいものを表せるようになる。
- 楽しく表現したり鑑賞したりすることができる。